

目的 流行は限りなく出現するが、これを着用した場合、人間の動作とゆるみには適合寸法があると考えられる。片上肢上挙による裾線の変化など部分的な実験の報告は既になされているが、今回はワンピース・ドレスの種を定め着用実験を行ない、シルエットによる動きの変化とゆるみの適合寸法を、数値の上からとらえる目的で実験し分析した。

方法 実験材料は、厚さ 0.283mm 平面重 0.01065g/cm^2 糸密度縦 $30^*/\text{cm}$ 横 $27^*/\text{cm}$ の天竺木綿を用い、着用実験着は今回ウエストに切り替えのあるワンピース・ドレス、ウエストに切り替えのないワンピース・ドレスを基本とし、ドルマン・スリーブのビッグなワンピース・ドレス1種を加えて実物を製作した。着用実験は、運動領域の大きい腕の動作として両上肢上挙(45° 90° 135°)、片上肢上挙(45° 90° 135° 180°)、又上体前倒姿勢による動きの変化を写真撮影によってみた。

結果 背中心及び体前面の中心とウエスト線との交点を(A)、ヒップ線との交点を(B)とする。体前面においては両足足先点の中央を(C)とし、体後面の踵点の中央を(D)と定めて動作による距離を測定したところ、両上肢上挙の場合、基本型の体後面においては、 45° より 135° の上挙の方がAD間は長くなる。体前面においても 45° より 135° の上挙の方がAC間は長くなる。又ベーツアップ・ドレスとドルマン・スリーブのドレスを着用して同じ動作を比較すると、AD間の距離はドルマン・スリーブのドレスの方が短くなる。